

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和4年8月5日(2022.8.5)

【国際公開番号】WO2022/045105

【出願番号】特願2021-552872(P2021-552872)

【国際特許分類】

C 0 8 G 7 5 / 0 2 5 9 (2 0 1 6 . 0 1)

C 0 8 G 7 5 / 0 2 9 (2 0 1 6 . 0 1)

C 0 8 G 7 5 / 0 2 3 1 (2 0 1 6 . 0 1)

10

【 F I 】

C 0 8 G 7 5 / 0 2 5 9

C 0 8 G 7 5 / 0 2 9

C 0 8 G 7 5 / 0 2 3 1

【手続補正書】

【提出日】令和3年12月20日(2021.12.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

有機極性溶媒中で、少なくともジハロゲン化芳香族化合物、無機スルフィド化剤および化合物(A)をアルカリ金属水酸化物の存在下で反応させる、アミノ基を400 μmol/g以上、5,000 μmol/g以下の範囲で含有し、30 から320 まで10 / 分の昇温速度で加熱したときの重量減少率が5 wt %以下であるポリアリーレンスルフィドの製造方法において、反応容器中で無機スルフィド化剤1モルに対して化合物(A)を0.04モル以上0.5モル以下の範囲で存在させ、該化合物(A)は少なくとも1つの芳香環を有し、該1つの芳香環上にアミノ基と、水酸基、水酸基の塩、チオール基、およびチオール基の塩から選ばれる少なくとも1種類の官能基とを有する化合物であるポリアリーレンスルフィドの製造方法。

30

【請求項2】

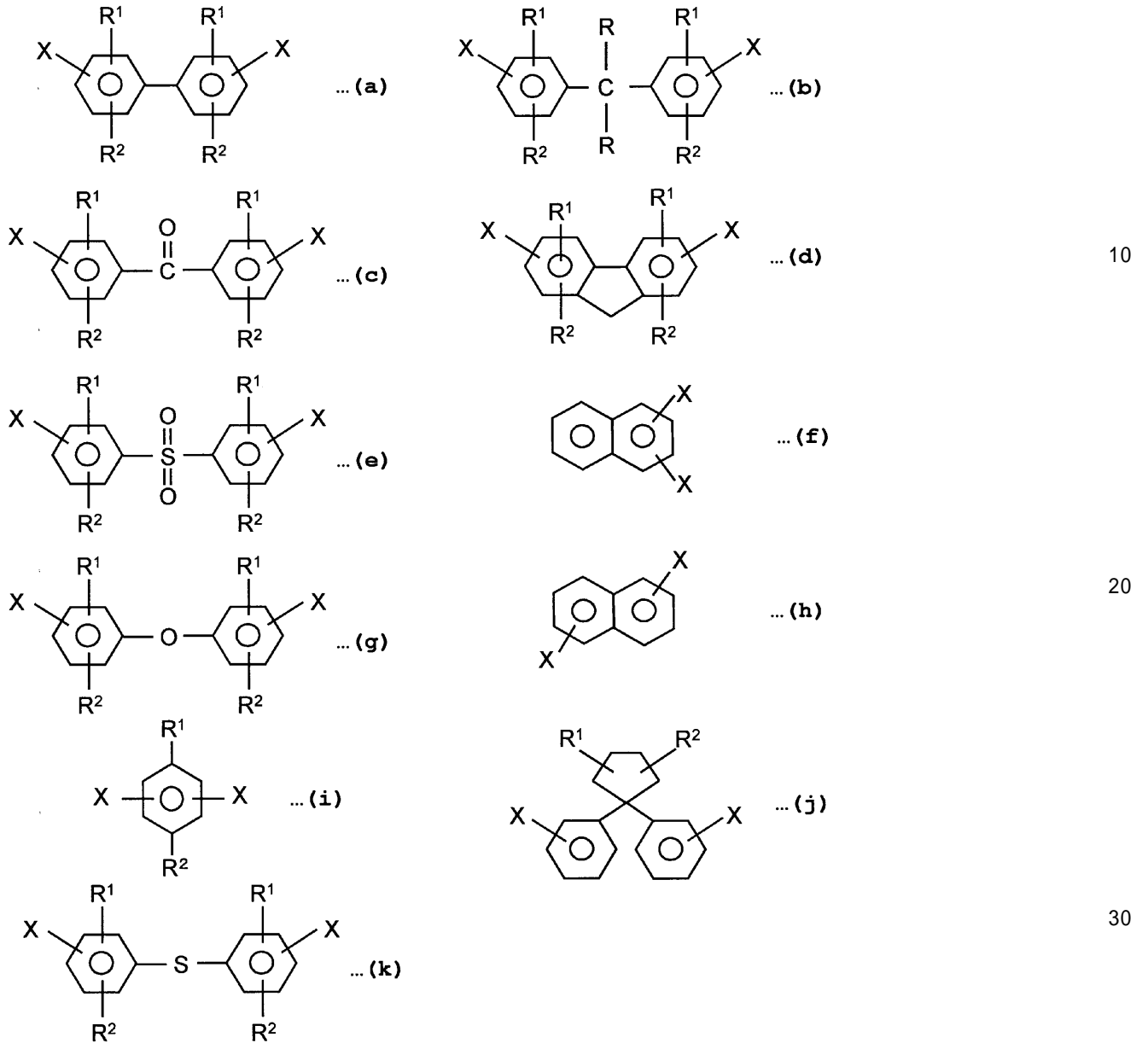
請求項1に記載のポリアリーレンスルフィドの製造方法であって、化合物(A)の少なくとも一部を、ジハロゲン化芳香族化合物を反応容器に添加するのと同じ段階で反応容器に添加することを特徴とするポリアリーレンスルフィドの製造方法。

【請求項3】

請求項1または2に記載の製造方法でポリアリーレンスルフィドを得、ついで下記式(a)~(k)から選ばれる少なくとも一つの化合物(B)を混合し、さらに加熱するポリアリーレンスルフィド共重合体の製造方法。

40

【化 1】



(ここでXはヒドロキシル基、カルボキシル基、シラノール基、スルホン酸基、アミノ基、酸無水物基、アセトアミド基、スルホンアミド基、シアノ基、イソシアネート基、アルデヒド基、アセチル基、エポキシ基、およびアルコキシシラン基から選ばれるいずれかである。R、R¹、およびR²は水素、炭素原子数1~12のアルキル基、炭素原子数6~24のアリール基、ハロゲン基から選ばれる置換基であり、R、R¹、およびR²は同一でも異なってもよい。)

【請求項 4】

アミノ基を400 μmol/g以上、5,000 μmol/g以下の範囲で含有し、30から320 まで10 /分の昇温速度で加熱したときの重量減少率が5 wt%以下であるポリアリーレンスルフィド。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

20

30

40

50

【 0 0 1 0 】

有機極性溶媒中で、少なくともジハロゲン化芳香族化合物、無機スルフィド化剤および化合物（A）をアルカリ金属水酸化物の存在下で反応させる、アミノ基を $400 \mu\text{mol} / \text{g}$ 以上、 $5,000 \mu\text{mol} / \text{g}$ 以下の範囲で含有し、 30 から 320 まで 10 /分の昇温速度で加熱したときの重量減少率が $5 \text{ wt} \%$ 以下であるポリアリーレンスルフィドの製造方法において、反応容器中で無機スルフィド化剤 1 モルに対して化合物（A）を 0.04 モル以上 0.5 モル以下の範囲で存在させ、該化合物（A）は少なくとも 1 つの芳香環を有し、該 1 つの芳香環上にアミノ基と、水酸基、水酸基の塩、チオール基、およびチオール基の塩から選ばれる少なくとも 1 種類の官能基とを有する化合物であるポリアリーレンスルフィドの製造方法。

10

20

30

40

50